



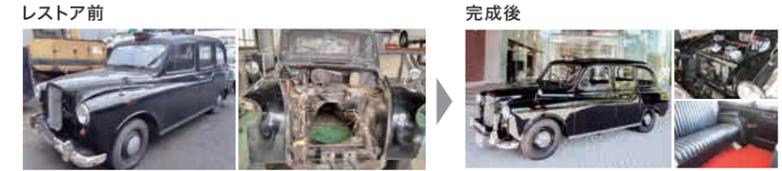
EV化：蓄エネ・活エネ

EV化をはじめとした蓄電池の活用。
安定的エネルギー供給の新しいカタチを考えます。



クラシックカーが蘇る EVロンドンタクシー

レストア+EVコンバージョンで車社会に新たな未来を
両備テクノモビリティカンパニーが1969年製のロンドンタクシーを電気自動車として蘇らせました。レストア(経年劣化した車両を新車同様の状態に復元する技術)と、EV化(既存のエンジン車をベースに電気自動車に改造すること)で、クラシックカーや旧車を持つ無限の可能性を引き出します。“新車に買い替え続ける”から“電気へコンバージョンして古いものを大切に使い続ける”サイクルへの転換を提案。未来の車社会に新たな一石を投じています。



車両のEV化 交通運輸各社の取り組み

バスユニット
中国バスでは、備後圏域初の取り組みとして、ピーワイティージャパン株式会社製の小型電気バス「J6」を導入し、2024年4月から府中市内での運行を開始しています。



トランスポートユニット
両備トランスポートカンパニーでは、脱炭素や大気汚染の課題解決のため、2028年度までに環境配慮型トラックを4台以上導入します。

タクシーユニット
岡山交通は、2023年12月、EVタクシーとして「日産アリア」を中四国で初めて導入しました。岡山交通では、走行中の燃料消費量を抑えるエコドライブの推進を徹底してまいりましたが、さらに2030年に向けてハイブリッド車、アイドリングストップ装置付き車両などの低公害車の計画的な導入を進めています。



環境に優しいEV車 EVリバーストライク

手軽で環境にやさしい小型EV車両を自社開発
市街地での短距離移動、観光地の地域内移動などに使える1~2人乗りの電動小型三輪車です。持続可能な社会実現に貢献するためますます技術開発を進めます。



〈製品特長〉
・費用を最大限まで抑えた、コストパフォーマンス!
・工事不要!自宅の家庭用コンセントで充電可能!
・車検・車庫証明不要
・安心のメーカー保証



路面電車とバスの融合 新たな乗り物開発に向けた実証実験

路面電車は交通渋滞の影響を受けにくい。ならば既存のレールに路線バスを接続できれば、朝の通勤通学時間帯の運行がよりスムーズになるのではないかと発想で2023年1月に実証実験を実施しました。線路と道路の両方を走ることができる新たなバスの開発実現を模索します。



再生可能エネルギー & エネルギーマネジメント

再生可能エネルギーを使う割合を大きく増やし、
エネルギー効率を高めます。



再エネの早期戦力化 地熱発電施設を取得し運用実験

Sustech社との地熱発電運用に関する共同実証実験
両備ホールディングスは2022年に大分県にあるバイナリー地熱発電施設を取得し、運用に関する実証実験を進めています。地熱発電は太陽光に比べて発電可能エリアが限られる一方、昼夜問わず熱エネルギーを取り出すことが可能なため安定した発電を期待されています。この実証実験は蓄電池利用や電力市場での運用等を想定して推進しているものです。

再生可能エネルギーの戦略的な運用体制の実現に向けてさらなる一歩を踏み出す

今回の地熱発電所取得は、両備グループのカーボンニュートラル化を進め、さらには、市場での売買による収益化を見据えたものです。両備グループはこれにより、再生可能エネルギーの戦略的な運用体制の実現に向けて大きな一歩を踏み出しました。

※購入した発電所は敷地に2基ずつのバイナリー発電施設設置(合計4基)
※取得した発電施設は、経産省認可済(2015年12月)、九州電力とも売電契約締結済(2017年9月)の施設です。



分散型電力運用プラットフォーム「ELIC」について

Sustech社(東京都)が開発する「ELIC」は、再生可能エネルギー(以下、再エネ)を用いた分散型電源の管理・運用を複合支援するエネルギープラットフォームです。発電された再エネを管理し、自家消費や余剰電力の売電、環境価値の市場取引等、様々な形で運用することが可能なため、企業独自のエネルギー戦略に沿って活用できるシステムとなっています。



地域の再エネ化に貢献 小水力発電事業

両備グループは、2023年に株式会社森とみずのちから(奈良県)と協業協定を締結し、岡山県での小水力発電所開発の検討を進めています。2024年5月には、真庭市と小水力発電事業協業に関する協定を締結いたしました。今後も、調査や開発について岡山県の各自治体などと連携し、地域の脱炭素化や活性化に貢献していきたいと考えております。

